

様式第2号（第7条関係）

富士見市議会意見交換会実施報告書

実施主体	総務常任委員会	
テーマ	若者の声を届ける選挙について	
目的	若い世代の投票率向上ため	
実施日時	令和7年12月16日（火）午後3時30分～午後5時30分	
実施場所	淑徳大学埼玉キャンパス 図書館1階オープンスペース	
対象者	人数	11人
	概要	淑徳大学地域創生学部地域創生学科の学生
参加議員	委員長 村元 寛 副委員長 斉藤 隆浩 委員 松本 剛、伊勢田 幸正、深瀬 優子、 今成 優太、川畑 勝弘	
実施内容		
<p>1 進行</p> <p>（1）開会</p> <p>（2）委員長あいさつ</p> <p>（3）淑徳大学地域創生学部地域創生学科 渡邊教授 ごあいさつ</p> <p>（4）自己紹介</p> <p>（5）意見交換（グループごと）</p> <p>（6）各グループの感想発表</p> <p>（7）副委員長あいさつ</p> <p>（8）閉会</p> <p>司会者：斉藤副委員長 記録者：伊勢田委員</p>		

2 意見の概要

(1) 意見交換会の目的

本意見交換会は、若者の政治参加、特に地方自治や市議会への関心を高める方策について、学生の率直な意見を聴取し、今後の市政運営や議会活動の参考とすることを目的として開催した。

(2) 学生から出された主な意見

①政治及び市議会に対する現状認識並びに若者の投票率が低い理由について

- ・国政や総理大臣に関するニュースは、SNSやテレビで目にする機会が多いが、市議会や市政に関する情報は、ほとんど入ってこない。
- ・市議会議員が何をしているのか分からず、身近な存在として感じにくい。
- ・政治そのものが「難しそう」、「自分には関係がない」と感じられ、関心を持つきっかけが少ない。
- ・投票所の場所や投票方法が分かりづらく、調べるのが面倒に感じる。他の地域からこちらに来たため、こちらの施設などが分からない。
- ・人物像が分かりづらい。候補者の考えや違いが分からず、「誰に投票すればよいか分からない」状態になる。
- ・学業やアルバイト、就職活動などで忙しく、投票が後回しになってしまう。
- ・「投票しても何も変わらないのではないか」という漠然とした不信感がある。若者世代の声が反映された実績が分からない。

②投票率向上に向けた具体的提案

- ・投票所の場所、候補者情報及び市の取組などを二次元コードやSNSで簡単に確認できる仕組みがあるとよい。
- ・長文ではなくポイントを絞った形で、候補者の考えを分かりやすく発信してほしい。
- ・マイナンバーカードなどを活用したオンライン投票の導入を検討してほしい。
- ・投票を義務的に呼びかけるのではなく、「参加しやすい雰囲気づくり」が

大切。

- ・若者同士で意見交換ができる場や、模擬選挙などの体験型の取組があれば関心が高まる。
- ・車で移動、巡回するような移動式の投票所
- ・1分間のアピール動画を作成し、公約を分かりやすく発信する。
- ・現時点の投票率に応じて電光掲示板がライトアップされる仕組みを作り、投票率を可視化する。
- ・大学生限定で住民票がない住人も別に投票して「参考結果」として公表する仕組みをつくる。投票に参加してもらう。
- ・不在者投票制度が複雑で分かりにくい。大学のオリエンテーションやポータルサイトで図解説明の取組をする。不在者投票制度も、オンラインで投票できたり、一度市役所に行ったら手続が完結するような制度に見直したりする必要がある。
- ・ご朱印帳集めがブームになっているが、投票に行くとスタンプやシールが貰えるようになると集めることを目的に投票する人もいると思う。さらに、それらが商品券などのポイントになる仕組みがあるとよいのでは。
- ・地方出身などの理由で、居住地の施設の場所がよく分からない。通学途中の駅やスーパーで投票できるといい。
- ・投票所には「お堅い」イメージがある。投票所に話題性があるともっと違うと思う。例えば、ゆるキャラやお笑い芸人など若者が関心を持てるものや、人が集まりやすいものが投票所があればよいと思う。

③主権者教育・情報発信について

- ・学校での政治教育は制度説明が中心で、実際の市政や議会の動きと結びついていない。
- ・市政の情報を「難しい言葉」ではなく、「自分たちの生活にどう関係するか」という視点で伝えてほしい。
- ・動画やSNSなど、若者が普段使っている媒体での情報発信が有効ではないか。若者の多くはインスタグラムを使っており、動画をアップするストーリーが有効だと思う。友達にも投票に行こうと薦めやすくなると思う。

- ・大学のオリエンテーションや授業でもっと投票を促しては。
- ・高校の時に模擬投票をやったが、投票が身近になり関心が高まると思う。
- ・選挙の前などに時期を決めて、地方議会について分かりやすく伝えるキャンペーンを実施しては。
- ・選挙のポスターのイメージが良くない。人物像が分からない。もっとポップにしたり、二次元コードで動画をつけたりするようには。
- ・親が投票に行っているから行こうと思った。小さいときから親と一緒に投票に行くことが重要だと思う。

④その他出された意見

- ・場所は三芳町になるが、大学までの通学路でトラックがよく通るなど危ない場所があるため道の拡幅など検討してほしい。
- ・富士見市で横断歩道を付けてほしい場所がある。
- ・以前開催された「ももクロ春の一大事」のような大きなイベントをやってほしい。
- ・富士見市キャンペーンで出されている「W30」（首都30キロメートル圏内、電車で池袋まで30分以内）が魅力的で、施設も充実していると思う。

(3) 委員の受け止め及び意見

- ・市議会が市民に最も身近な政治であるにもかかわらず、若者に十分伝わっていない現状が浮き彫りになった。
- ・「投票してください」という呼びかけだけでは行動につながらず、情報の届け方や参加の仕組みを見直す必要がある。
- ・若者の意見を今後の議会広報、主権者教育及び政治参加促進策に反映させることが重要である。

3 まとめ

今回の意見交換会では、若者の率直な声が多く出され、市議会や市政の情報発信の在り方、政治参加の仕組みについて、多くの課題が明らかになった。

改善策・見直しについては、不在者投票手続の簡素化など国の役割となる内容を含めて、具体的なアイデアも多数もらうことができた。

また、市政や地域について、上記④その他の意見も聞くことができた。

今後、総務常任委員会としても、若者が政治を身近に感じ、主体的に参加できる環境づくりについて検討を進めていく必要があることが確認された。高校生との交流は、議会としても始まっているが、大学生についても今後、形を模索していければと思う。

※この記録は、意見交換会での発言をまとめたものです。

発言内容は、趣旨が読み取れる範囲で一部要約してあります。

令和8年2月26日

富士見市議会議長 様

上記のとおり意見交換会を実施したので、富士見市議会意見交換会実施要綱第7条第1項の規定に基づき報告します。

実施主体の代表者氏名 村元 寛